

「 「 「 「
「 「 「
「 「
「

♪ ジョイコン NEWS ♪

第 13 号 2015 年 8 月 19 日

猛暑日が続いたこの夏、いかがお過ごしでしょうか。

高校野球も連日熱戦が繰り広げられています。今年は「高校野球 100 年」に当たるそうですが、太平洋戦争の時期には中断しています。この時期、スポーツ大会は禁止になり、野球もできない不幸な時代でした。

それでは、「♪ ジョイコン NEWS ♪」(第 13 号)をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】 次回コンサートのご案内
 - ◆ 第 17 回コンサート
- 【2】 今後の予定 (先取り情報)
 - ◆ 第 18 回コンサート
 - ◆ 第 19 回コンサート
- 【3】 ピストントランペットとロータリートランペット
- 【4】 コンサートのアンケートから

【1】 次回コンサートのご案内

■■ 第 17 回コンサート ■■

- ◇ 2015 年 9 月 20 日 (日曜日) 14:00 開演 (13:30 受付開始)
- ◇ 出演: 佐藤友紀 (トランペット)、下田望 (ピアノ)
- ◇ プログラム (予定)
 - ◆ A. ゲティケ: コンサートエチュード
 - ◆ A. ボロディン: ダッタン人の踊り
 - ◆ E. グリーグ: ソルヴェイグの歌
 - ◆ J. S. バッハ: 神の御業はすべて善きことなり
 - ◆ M. ラヴェル: ハバネラ形式の小品
 - ◆ G. プッチーニ: 誰も寝てはならぬ
 - ◆ J. ロドリゴ: 恋のアランフェス
 - ◆ G. ガーシュウィン: ラプソディ・イン・ブルー ほか

第 17 回ジョイフルコンサートは『トランペット音楽紀行～大倉山記念館に響きわたる魅惑の音色～』と題して、お届けします。

東京交響楽団首席奏者の佐藤友紀さんによるトランペット演奏です。音楽でロシアからヨーロッパを駆け抜け、メキシコに渡り、最後アメリカまでの世界旅行に出かけましょうというとても楽しいプログラムです。

☆ ボロディン/ダッタン人の踊り

* ボロディン
ボロディンは作曲家というより優秀な化学者でした。サンクトペテルブルク大学の医学部を卒業して、病院に勤務しています。その後サンクトペテルブルク大学の教授となり生涯有機化学の研究を行ったそうです。

その片手間に作曲をしていたということなのか、才能に溢れていた人だと思います。自称「日曜作曲家」と名乗っていたそうです。

* ダッタン人の踊り
ダッタン人の踊りはオペラ「イーゴリ公」の第 2 幕の序曲です。CM などでもよく使われるので、皆様ご存知の曲だと思います。

なんともエキゾチックなメロディーが哀愁を感じさせます。

ボロディンは「イーゴリ公」を完成させる前に亡くなってしまったため、リムスキー＝コルサコフとグラスノフが補筆と改訂を行い完成させました。

* ダツタン（韃靼）とは？

ダツタンって何だろうと今回思いました。
ダツタンそばというものがありますが、何か関係があるのか、とか。
ダツタン人の踊りですから地名とか国名だとは思いましたが、
漢字も読み方も難しいし、音の響きも日本語っぽくないというか。

調べるとこのダツタンというのはモンゴル高原の東北で遊牧していた諸民族を総称したタタルという言葉の訳だそうです。
「イーゴリ公」に出てくるのはポロヴェツ人です。ウクライナからカザフスタンで遊牧していた民族なので、厳密にはダツタン人ではなくこの訳が間違っているという説もあります。

ちなみにダツタンそばはダツタンの人たちが好んで食べているそばなのでこう呼ばれているそうです。ルチンが普通そばの50倍から100倍含まれていて、苦みが強いですが健康効果が高いということで日本でも人気となっています。

☆ ガーシュウィン/ラプソディー・イン・ブルー

* ガーシュウィン

ガーシュウィンはアメリカの音楽を作り上げた作曲家とされています。
クラシック、ポピュラー音楽の両方の分野で曲を残しています。

ユダヤ系ロシアの移民の家に生まれ、貧しくてあまり十分に音楽を学ぶことはできなかったようです。オーケストレーションなどはほとんど独学で学んだそうです。そのためこれまでの音楽にとらわれない、自由な発想で曲を作ることができたのかもしれない。

その後、ある程度名声も経済力も得た後に、ストラヴィンスキー、ラヴェルなどに指導を頼んだのですが、もうすでに自分の音楽を確立しているのだからと断られてしまいます。

ストラヴィンスキーには反対にどうやったらそんなに稼ぐことができるのか教えて欲しいぐらいだと言われたという話が残っています。
ストラヴィンスキーは、「これは作り話だけれど実際にそういうことがあったら楽しかった」と話したそうです。面白い人ですね。

* ラプソディー・イン・ブルー

ガーシュウィンが2台のピアノを想定して作曲したものを、ファーディー・グローフェがオーケストラ用に編曲した音楽作品です。その頃ガーシュウィンがまだオーケストラ用に曲を作ることに精通していなかったためです。

皆様よくご存じだと思いますが、明るくとても楽しい曲です。
曲の冒頭部分はボストンに向かう際に乗った列車の走行音から思いついたという面白いエピソードが残っています。

音楽による世界旅行がテーマですが、バロックから近現代まで音楽史をたどることもできるプログラムです。

どうぞお楽しみになさってください。(A.N)

■ 予約申し込みはこちら

ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）～「予約申し込み」は受付けておりません

■■ 第18回コンサート ■■

◇ 2015年11月15日（日曜日）14:00 開演（13:30 受付開始）
◇ 出演：平井千絵（フォルテピアノ）

☆ 平井千絵さんがトークを交えて、フォルテピアノのすべてをお見せする
ジョイコンならではのユニークなコンサートです。どうぞお楽しみに！

◆ 予約開始日：2015年9月21日（月曜日）

■■ 第19回コンサート（3周年記念コンサート） ■■

◇ 2016年1月17日（日曜日）

◇ 出演：横山奈加子（ヴァイオリン）、横山和加子（ヴァイオリン）、
佐々木京子（ピアノ）

【3】ピストントランペットとロータリートランペット

トランペットは、音色が明るく華やかで、演奏する見た目も派手で目立ちますが、ミスした時も目立つので、ハイリスク・ハイリターン楽器です。

ヘンデルやバッハが活躍していたバロック時代（1600年～1800年頃）に使用されていたトランペットはナチュラルトランペットといわれ、自然倍音しか演奏できない楽器でした。

自然倍音とは唇の形や息の速さを変えて出せる音のことで、下から
ド・ソ・ド・ミ・ソ・^bシ・ド・レ・ミ・[#]ファ・ソしか出せませんでした。

演奏できない音がたくさんあったので「もっといろいろな音が吹けるようにできないか？」ということで、改良に改良を重ねてできたのが、ヴァルブのついた今のトランペットです。1820年頃に完成し、1850年頃から普及していきました。

3つのヴァルブを使って息の通り道の長さを変えて音程を作ります。
息の通り道が長くなると音は低くなります。

演奏会でオーケストラのトランペット奏者を見ると、横型のトランペットを吹いていることがあります。これはトランペットを横にして吹いているのではなくロータリートランペットという楽器です。ロータリーに対して、普通のトランペットはピストントランペットといえます。

ピストントランペットとロータリートランペットでは形が少し違います。

楽器の長さは同じですが、ロータリートランペットの方がベル（朝顔）が大きく、ロータリーヴァルブがついていて、構造の似たホルンに近い洪く
まろやかな音色がします。音量はピストントランペットよりも小さく、
ほかの楽器の音とよく融けあいます。

ピストントランペットは明るく華やかな音色が特徴でソロや吹奏楽で使われます。

オーケストラでは曲によって、ロータリートランペットとピストントラン
ペットを使い分けています。

ロータリートランペットは「ドイツ・オーストリアもの」の曲の時に多く使用
されます。「ドイツ・オーストリアもの」とは、ドイツやウィーンで活躍した
作曲家の作品のことで、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの古典派
からシューベルト、シューマン、ブラームス、ワーグナー、ヨハン・シュトラ
ウス、ブルックナー、マーラー、リヒャルト・シュトラウスなどの曲です。

チャイコフスキー、ラフマニノフ、ストラヴィンスキー、ラヴェル、シベリウ
スの曲はピストントランペットで演奏されることが多いです。

オーケストラでトランペットが“カッコいい曲！”を紹介します。

チャイコフスキー 『交響曲第4番第1楽章』『交響曲第5番第4楽章』

ドヴォルザーク 『序曲《1812年》』
マーラー 『交響曲第9番第4楽章』
ムソルグスキー 『交響曲第5番』
ショスタコーヴィチ 『展覧会の絵』より「プロムナード」
『祝典序曲』『ピアノ協奏曲第1番』

機会がありましたらお聴きになって下さい。(のん)

【4】コンサートのアンケートから

★前回のジョイフルコンサート（7月19日公演）
HABANERO SAXによる『サクソフォンで奏でるクラシックの世界～4本の
クラシカルサクソフォンによる豊かな響き～』は如何でしたか？

興味を持ってお聴き頂けたためか、これまでにない高い回収率でした。
また、内容の評価も「大変良かった」と「良かった」で96%もありました。

アンケートの自由記入欄（ご感想など）には、
『サクソフォンのコンサートは初めてで新鮮でした』『とても珍しいサクソ
四重奏によるコンサートでしたので楽しみにして参りました。期待通りでした』
『ゴルトベルグ、素晴らしかった！！』『サクソもこれ程表現力が豊かだと
初めてわかりました。』など数多くのメッセージが寄せられました。

いつもの様に、「集計結果」と「メッセージ」は、お客様の生の声として演奏
者にもそのままお知らせしました。（もちろん個人情報を含みません）

早速、演奏者（代表の奥野祐樹氏）から『回収率の高さはもちろん、多くの
お客様から良い評価を頂いたようで嬉しく思います』とコメントがありました。

「ジョイコン」は、今後も演奏者とお客様を繋ぐ“架け橋”になれるよう努め
てまいります。

【編集後記】

先日、横浜市史資料室主催の展示（横浜中央図書館B1F 9月23日迄 無料）
『戦後70年 戦争を知る、伝えるー横浜の戦争と戦後』を観る機会があった。
市民から寄せられた169点の写真、提供者自身の体験記、スケッチ、略図など、
初めて観るものばかり。戦争や空襲の現実を知る展示会でした。（お）

※このメールマガジンは、
大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で
「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■演奏会予約申し込み
次回予約申し込みはこちら
ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>
予約専用電話：080-8424-5108

■バックナンバー
メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら
ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更
メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら
info@ohkurayama-joycon.com

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会
Eメール info@ohkurayama-joycon.com
携帯電話 080-8424-5108
URL <http://www.ohkurayama-joycon.com/>
